

《担当者名》 看護福祉学部助教 / 高橋 由紀 t-yuki@hoku-iryō-u.ac.jp 看護福祉学部講師 / 池森 康裕

【概要】

介護を必要とする人を“生活する人”と受けとめ、一人ひとりの意向や個性を理解することが大切である。心身に障がいがある人も、人間としての尊厳を守り自立に向けた支援について学ぶ。

身体に不自由がある人が、自立した日常生活を送るうえで必要とされる、移動・食事・排泄・衣類などに関する基礎知識と生活支援技術について学ぶ。

【学修目標】

1. 各場面における生活支援技術の意義や根拠が説明できる。
2. 福祉用具の安全な活用法を説明することができる。
3. 利用者の障害に応じて、自立に向けた介護技術を理解する。
4. 介護の社会化の背景や、超高齢社会に伴う社会的役割を理解する。
5. 認知症の中核症状とBPSDを理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション ベッドメイキング	ボディメカニクスを活用したベッドメイキングができる。	池森 康裕
2	移動の介護	移動の意義を理解する。 「ベッド上での移動介護」	池森 康裕
3	移動の介護	ベッド上での起き上り介助	池森 康裕
4	移動の介護	車いすの機能と操作用法を理解し、安全・安楽に車いす介助ができる。	池森 康裕 高橋 由紀
5	移動の介護	身体機能が低下した利用者の状態を理解し、安全・安楽に移動の介助ができる。(高齢者体験)	池森 康裕 高橋 由紀
6	移乗(トランスファー)の介護	障害に応じた移乗介助の方法を理解し、安全に実施できる。	池森 康裕
7	衣服の着脱介護	衣服の意義を理解して、障害に応じた介助が行える。(座位での着脱)	池森 康裕
8	食事の介護	食事の意義や嚥下のメカニズムを理解できる。	池森 康裕
9	食事の介護	障害に応じた食事の介助が行える。	池森 康裕
10	排泄の介護	排泄の意義を理解するとともに、排泄障害に応じた介助が行える。	池森 康裕
11	認知症ケア	認知症の基礎知識や日常生活に及ぼす影響を説明できる。	高橋 由紀
12	認知症ケア	症状に応じた対応方法について説明できる。	高橋 由紀
13	介護を取り巻く状況	超高齢社会における介護問題の背景について介護の歴史を通して理解して、現在の社会的役割について説明できる。	高橋 由紀
14	介護保険制度	介護保険制度の成立を介護を取り巻く状況から理解し、介護保険制度の基本的枠組みとしくみについて説明できる。	高橋 由紀
15	多職種との連携	介護を実践する上で、チームとは何か、多職種の役割について説明できる。	高橋 由紀

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート評価80%、授業態度20%

【教科書】

使用しない。レジメに従って資料を配布する。

【参考書】

介護福祉士養成講座編集委員編集：最新・介護福祉士養成講座3 『介護の基本』 中央法規 2019
介護福祉士養成講座編集委員編集：最新・介護福祉士養成講座4 『介護の基本』 中央法規 2019
介護福祉士養成講座編集委員編集：最新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術』 中央法規 2019
介護福祉士養成講座編集委員編集：最新・介護福祉士養成講座7 『生活支援技術』 中央法規 2019
介護福祉士養成講座編集委員編集：最新・介護福祉士養成講座13 『認知症の理解』 中央法規 2019

【学修の準備】

- ・新聞やニュースを通して、介護・福祉に対する問題を自身の言葉で述べられるようまとめておくこと。（120分）
- ・1～10回目は、看護福祉学部棟地域看護実習室で演習を行うため、動きやすい服装で参加すること。
スカート以外の服装、上靴を準備する、髪は束ねる、化粧品・香水は控える、アクセサリー類は外す。
- ・前回の演習内容を復習して演習に臨むこと。なお、資料は紛失しないよう一つのファイルにまとめること。（120分）
- ・欠席した場合、学生の申し出により資料を配布するので、研究室まで取りに来ること。

【実務経験】

高橋由紀（介護福祉士）、池森康裕（介護福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および地域での介護分野の専門職として、実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。